

「現役世代の
負担軽減」は
まやかし

病院が
なくなる

子ども
医療費の
無償化を

社会保障は
国の責務

武器より医療
生活保護基準
引き上げを

薬の保険外

STOP!
命を奪う政治



オール近畿アクション2025

2025年11月1日(土) 15:00~

大阪・難波御堂筋ホール b2ホール

〒542-0076 大阪市中央区難波4-2-1 難波御堂筋ビルディング

アクセス

- Osaka Metro 御堂筋線「なんば」駅・中改札から徒歩1分。
13号出口直結。
- なおJR、南海、近鉄、阪神でお越しの場合も
地下からお越しいただき、13号出口をご利用ください。



●参加のお申込みは、所属団体にご連絡、もしくは
上記二次元コードからお願い致します。





ながとも まさてる ● 佛教大学准教授。2004年に津市立三重短期大学専任講師、助教授、准教授、教授を経て2022年より現職。公益財団法人日本医療総合研究所副理事長、自治体問題研究所理事、総合社会福祉研究所理事などを務めている。

若い人たちと 共に考える社会保障

講師 佛教大学准教授 長友 薫輝氏

人権保障水準の尺度でもある社会保障。しかし、社会保障に対する過度な歳出削減策によって、医療・介護・社会福祉分野の担い手不足は深刻な中、病床削減、病院統廃合、介護事業所の閉鎖で地域医療は危機に瀕しています。加えて、「現役世代のため」と「高齢者優遇論」で世代間の分断を煽り、さらなる公的医療費抑制策を進めようとしています。社会の分断と対立を煽り、不平等、不公平を進展させるのではなく、所得再分配機能を高める財政構成に転換させる…こうした課題を、長友ゼミの学生さんと共に考えていきたいと思います。若い世代“必見”の講演です。

ストップ「命を奪う政治」—薬の保険外し、病院がなくなる

自民・公明・維新の会は、医療費の4兆円削減・病床の11万床削減などの医療改悪案を検討することを、3党で合意しました。また石破政権の「骨太の方針2025」でも、長年の医療費抑制路線の上に、新たに薬剤の保険外し、一層の病床削減などを閣議決定しました。参議院議員選挙後の与党過半数割れの中で、新たな情勢が展開していますが、国民民主党や参政党も医療提供体制の縮小を掲げており、予断を許さない情勢となっています。

ただでさえ低い診療報酬の中で急速な物価高がおこり、医療機関の経営環境はかつてなく悪化しています。このままでは地域の医療機関が立ち行かなくなることは明らかで、診療報酬の緊急かつ大幅な引き上げは急務です。また保険証廃止は国民の医療を受ける権利の侵害に他なりません。有資格者には無条件で保険証を発行するよう、法改正を実現する必要があります。こうした医療改悪に加えて、介護・年金も含めた社会保障予算の切り捨ての一方で、アメリカ言いなりの防衛費倍増が行わ

れています。軍事大国化のために、国民生活を切り捨てる「命を奪う政治」にストップをかけなければなりません。

大阪ではカジノ計画を推進し、国民の財産を賭博で巻き上げようとしています。保険証の廃止にしても、カジノにしても、その基盤整備を行う関係業者に莫大な利益を供与する一方で、国民は権利を侵害され、生活は脅かされます。また、2000年代に入り、非正規雇用を常態化したことで、多くの国民が貧困に喘いでいるにもかかわらず、大企業は労働コスト削減で莫大な利益を手に入れています。アベノミクスによる金融緩和で、人為的に作り出された円安も、国民には急速な物価高による生活苦を強いる一方で、輸出大企業には為替差益による大儲けをもたらしています。こんな不条理は一刻も早く改めなければなりません。

この度、こうした悪政に抗議し、より良い社会をめざすための行動を企画しました。多くの皆さんの参加をお待ちしています。